青樓夜話色講釋

へ13
2132
73

自序

古池同人の短を謂ふ

ものの秋。春長と説るものの。

まつりごとは。君臣乃

ハ。安らく萩の雅会

73
2132
73
饗庭文庫
桑藤文庫
10

なり。子がら気性の長
きものハ長崎さゝ
こハり強腹ものハ
長の形をふの
かゝる。長尾と
中の道ひと

受ける。陳ようひとくひ
歌仏の長詩家ゑ。鼻の
下乃長尾を詩られ長和
ものハ振ふ。姫ゝ鼻毛の
長尾を思ひ。見ず於く長

羽織を切りて。蝙蝠や
仰せ付。褌を短くして
手拭乃代て遣す。
文乃始きよ。傚とり共ひ
襠ゑ縫上を。て。毛角なく成

糊町乃幹を。揚屋乃
く。毛絵なし。髪さきの
長さを。蝙蝠を逐
ぐ
物ゝ。牛ゑ小使を堪忍
く。体病乃患を引出さを

これ見くらべ教生とやいさむ
されば福徳寿の限の去来は
その生涯なり。大里の原
蓑乃短きを。生屈る所乃
啼きなるべし。彩ひなれば

短くもあるハ八百屋の棚の下
九十九里なるべし。或
長口上ハ西国巡礼。又
紙ぶくも鬼氣なり。
ほぐの中乃街。花乃盛乃

永安かちを。結ぶ遊んで帰
永ぶ遍永く。のの妙帰乃
妙を。その長能を清稽
不。色講釋〳〵
ちゆう〳〵の本末而已

不時寛政十三穀
辛酉孟春吉日
十方偏舎九誌

一九

さるふるも

月ハ

舞くる

人数

すのて

ちか

天

口車よふ〻〻しの川ゝる
猪牙舟の色薄紅ハ
塀まぢでの産料や同百匁

地

笄の紅のうるゝよ
なまうちゝを太平楽ハ
ゆ〻〻山客の揚料金三分

人

客〻しゐ女房の門ちがひよ
ゐひもうゝ吸物おゐ〻へ
俵藤の白米 價千両

青樓夜話色講釋

顛狂木乗如系隨風舞〻〻ハ。ちゝ〻ゐ〻きる
さい。塵〻〻〻。乳遠ゑ。まうゝさゝ〻〻ゝ。ゐる
ゆまゝ〻柳ゐ新ひし。軽薄桃花逐
水流〻〻ハ。ゐ〻んよゝ。ゆ〻〻〻
〻〻追涙ゝ。〻〻んざ〻ゝのある娼妓と。ゐゐ
浮〻〻〻飛花ゝ〻〻〻。ゐ〻〻〻〻〻〻
花廓の住真。楽一刻 價千金

これを見るよりまさる時は今は早速揚代借金通も不届なれども大家も見るよりはたちまちぶち〳〵わらく〳〵ぜんの髪の柳だろう。

狂言尽くしの内る同行二人

水狂　ろくろくろく

のみ。ゼウタウ陽斗ぜも。角屋敷ガ買れらァる。
ヨクヘときやァニて変へ新へらう。あそび
けいあそびがとくいのさろちら
がよるのちやァぽちあわへどゑへ
いのもろちやァきら新へがされでい
のきりきりているゆへやレきらう
さるがらう高さこ。産ぶらう出で。
うれあげだでとるよよ。外内中よ

ゑりまられてゆれこれとれるあんごら。
のよおれよぷらあるねらう金ガいァる。
ゆもまぷいうとそ半まろよきちやァ。なでへ
ガヨるくるるうぷやくもぷくせるやァ
るうわへといよんんごらごろちも又新
づでぷうもわへこもでれやせんぷれ
ごらうぷァ今ごやァ。うろうといられも
新へといよりのさ 辰 そのうりう。又あるこ

のようよ。新(かか)げ取(とと)ったるようもちてこさ。
水ナニ　こうこうこぶよ。そんぐらいむうでむぐ
なうをとたうこうもきわんぐ。あぐるよ
でぐうりもちるようもつうわん
ぐうやうこうこ新(わん)こてぐあるりのさ去(きよ)
年もきこ孫(ぐ)名びろわぐこのなぐぐぶのと。
りうりさとうりので。独(そで)なこの紙衣(かみこて)
羽織(はお)りとうらくさとろぐでうぐ。その

たとうよ又衣角(にりやうみよ)ぐこいよりのぐりて
いこうあ大(ぐ)ひぐやあ新(わん)ぐ。第市(だいち)の名(なう)
灯(づき)よ。小判(こだん)とうぐしこうやあ。まぐつま
うう新(わん)たるぐぐうるぐ。そのうりうぐ
いりもぐそくこうといりて。拭(あそ)ぐぐけぐ
法(ほう)といよりんぐぐ。ぬしこちやあまぐく。
それぐやあいうね(ぐ)。初(きよて)ぐのうちぐぐぐん
ぐうるぐけをもねよよ。おわよよあ

そぶがいゆるぞ。そしてぞおめへさちのいてこ
ゆやア。二合目三ちらいめでうぐがさごま
アのいりめだうで。邦よりも。上邦とう
なんこうの月てぞ。ちけこむゆ月が邦へうう
いこるみ 辰 さあうでござうすまぞ。そしてアノ
三合目よいこうあうごゆれべようござうり
すさこね 水 ソリヤアいろうあうやをおめへ
ぐこがぞうよ邦ア指ゆうべ。三ちいめの

いちうこうりのや
入用若者きうく紅ぐ二ちぐ。ほしめぐ一
ちぐ。こうぐあこどけみくぞ。ぞ二ちこと
も。ちうれめへうぞ。ぞあ二ちふ。第やぐ一
ちうこそれで三ちもこいふりのぐ。ちうぐ。逃
もううゆ。ゆ生よ。ちうやへぞきういこアア邦へ
ふうゆ。ぞんてくこれうでもぞう。ちうさる
ぐいうぞ。ぞん邦ちあへよりて。南一ちぐんで
ぞもようれてゆうアうみ。それううう第やへあ

ぐう。ちよびくのんで。茶や（ちや）舟宿（ふなやど）をうれて。
ちどめのうちへ。ぢいぶん（たで）ぢまよきる
さるがいゆよ。そしてぴとりでゆくことハ
ろうてよしゐゑへ。是非（ぜひ）ろご弟（ふく）もつれ
みやア。ぎうきのあんだへぐよく弟へ
りのよ。そしてろへりてうもきるがう
でんやをるる。ちうきんりのよ。ひとりでり
しいへいそりやアるちうがよくふるう

わへりやアやア。きをるて拝（あてば）るものじやア
弟へるる。そをでぬしぐ。訓（をで）深（ふか）よでもるろふ
とおりいねきるる。ちうこんいやるやろくて
いつくてろを。二ろるいやるよきるせへ。ここをぐ。
若（ゐる）りのやりよへ二ろう。茶やのかうふへ二
ろうつとめぐ所（とこ）ぢまいできろ二ろる。
床（とこだな）ぢいとぐ。ぢきるりてきろころぐ三ん。
ちんぐぐうぐ一ろ。ぐいやぐ一ろ。イヤまぐ

ちゃうの桃竹のうち男は二ぢ。それでこそ。
てうどもあはでぎうちうきするとこのうのご。
それらしでも。級日そのかっぷでのこと
へ。おそうぐんばくでぎうのいてゆくねばるうね
ヨとうる。又ゆうるどっうくうのハ福へゆる。
ソレ中の所へ出ても。むくうるきあてうるい
しうゆうでもくうるとっごこのうちっぐもチト。
市めんなんしっだうとだうぐりう。

きそうゆうゆうやアるりゃせんぷいしゃこいこ
ふ。ゆうと弥ぐうれてもゆうぐるきまきを
あんあれうも。ゆうふ又ゆうぎのゆうお
うれわへヨとる。ゆうぐ弟でも人のヨうい
ゆりいうねぐうれてゆく。ゆうとなるゆう
ゆてゆうぐとひれうをうい。いうもう
あるうこいうりのぐうそんるもっく
ヨとけてゆうゆやアっ。ぐうういたぐヨとう

ゆ(ゆる)ぢいさまがゑ。さうんよ時分よ。
茶屋へはいりちろんぽうてこと人のめも。
ちゑぐぐひらちゃらせておいて
おうげゆやア。酔つぱらはれよ。行積
とおてうて。あしんじゃまいよきちよのイヤ
彩色とうんなあげろのぽんのうのう。
ちるうぎーきのうへとらいてもこと人へ
ものが。ナニういへるおようるされまセと

いつちうぐで彩色(むら)と鬼よ(ゆ)と(ぢま)ぶ
れてもぶりてがナニサ内(ないせう)ちうのつつけで。
ぶちこーらが内でハ。ませねとぶつく。
あハちうちうだろてられるぞふいて
ものぐうう。二階(ようかい)ぢうがゃとまきゆうな
くくりてたをとよりてやもて
ぢやア。おとうのゆうもぶれてこゆやァな
らおくいよりのさ。イヤ又つぐで出来(でき)と

いろで
色るゝへぞよでもわへゝゆんごぐ。ぎてろくと
ゝいるよゝわれてきてさゆついぞるゝゆいぐ
べりるりのごよ　このおしてこりてさいふるてこゆべとて
でもゆしぐ。こるゝらゝぐわれさ
ぎてろくいゝふろるゆぐ。そこでねりのきよりれいしゝと
いゝはれつけてるおゝこゆへそれでこのちりよとゝいぐてえくろ
付内ゆろゝるのうち　丑改　モレるようゝゆくよゝでで
ろゝるろゝぐでるゆく
ぎいまるを　水　ヤろんゝよ。ゆるるとぎこの引ぐ。
ゝるゝこぐゝるゝりてろりゝ。ゆりろゝゝまろろんゝ。ゆりゝゝりゝけゝ
ニアそゝいゝりりのごりゝ。ゝるゝるゝかいゝる

つるゝゆろてゝるゆヤぺてゝるいろちヤ。ゝろろ全
ぎゆヤア孫へぐ。おそゝくおいゝろどかも
ゝろろくあそぶゆろゝ孫へゆゝる。性へまで
ゝろゝる。このおびぐゆゆ孫へるる　丑改　り
まぐゝろぐでゆを　水　どこゆくとちあぐて
きよろくゝとゝまへを　辰　おそろぐまぐきゝ孫へそゝぐ
水　ろんゝよ。これハトゆろくゝよりこれをぐさゝぎよ。
ゝいゝ　水　こゝろヤつまゝゝわへ。夜さんゝゝよゝきと

つけてぷんなされべいくるまよりくのちかくとのよ
子 コトこうへいろうぞんぐ　ぞんぐ　ぞんぐ　ぞんぐ
水 こりやいくぐの内へ入ると山の神ぐ
でこぐこなぐこぜんぎまるあやあや
ナるトまぶいろが 辰 りよまつうきまこと 水 ヲヤ
あまき
りんきぐこぐろう 寅 バイおこだこ入ぐ 水 ヲイ
サア長さん 子 生おさえく 寅 上形おろく
ア六 水 何のこうさトさんだりこと
あぐる

○金銀を沸あつきまま流れの黒人も命
のセんぐこぐこぷつぐこうつ赤くる 寅 を
りんぐぞめれいむくどうのぷれつまつ
きこうしさえワチリく 地 ろ 傳 コウ おアとよ
ぐいなぐこぷこぷこぷこのんやゆこと トきやること ろ ーの
陳歌 彩造 シヤこの厚ぐんぐるそこと アるれ ぷ 大きま
なりんぐこよていまいつけ 傳 ちつきるとうて 役
のさるアぐぐもあんめくトるうこうのむそ
んぐこころとぷへあ

げてたらくとのこぞくしの下のさんへたくらいでまさをのつるる紙とのちゆめくまつて

地号吉 仏やついでるんぐ。大のこそとふんづけさいめくまつ。きのきうかくちくあうめぐさんぐとくくれておきやアぐりくさ門こうぐたくうときそぐーのふろあひやくとしもさねてうちんそそるさげくちて

左ちえ 十ちえくさんアるせくまいあめくぐよーてもふわわの。

ツレさえ そくさぐそくぐ

ろういぜどれもちんでいふぐぐいの吉ろ

めぐ 左ちえ 十ちえそでやそくうれがよい

十 むくふのやるぐたくやひ。せんぐ系金るの時

大平ぐかりくさ安ぐ 太 こいろもあくあくらう

ぐぐぐぜぐんなまよーちやアくエくあんぐ

トむちくくよるうて地 傳 アイタイ 太 これ佐めん

ひうのあーとふむ

なさい 傳 やくくうの敬るーどやアあんめし

人のくくとぐめぐきやアぐるここアわくエく

吉 なんぐよくろたくくアぐぶりくくてやエや

るはてはてさてさてさてさてさてさて
りのが二人きいてそて 八ろう かあさんごちよう
んセ。ろ〜い〜ろんるとろーじゃ かえ るるで
あづまるびをーじゃ。ろらうりのいのきさ
るいとこーじゃとといの。大坂でろうぶりくの。
ゆのふいやセんとといのつ〜ァくいらいてこ
まをいてーじゃ 八ろう 京坂でもごまま
いさくいとをちるが。ぽぽごきれいよいてある
とといの 京 るんいるぞいの 八 よとり

つ〜ァうべてこまをぞ〜いみ〜ぞ。さんのお
てもも。サァあがりうきれとうとといのはうちとらうの
そそぞぐ きそう 若者 りちく〜おあがりなされまセ
八 イヤ〜ぷ〜ら〜ふいよ。人のつうとをぞさこ
〜がるいといのトそうをぎろ。をぐぐき チャンラ〜〜〜
○ 多数在ふふちちち

ともはきくけいろのむくいきろちろめんの
ちごだとめやうしぢとうくらぐきるがくゆのく
とざくきへさうるかあちだくくとれきとあう
うくいううしがてうくなてうわとあげ

水狂 ヲマいろのまるきるさろと 右立 ろうさ
今きいうとトくんざくはてあんどうのゆくとうきくんぐ
ヲヤさてうかくようトひざでうくくと
おいうんで。仲間さんがろうせくさてさろきくハ
ゆまとおあうがうふござういさてさ 左立
そうくいれておきねるんく。コウ松のさん

いせやの見さんくきごいるんをうく 松 いうそ
ちれておるんきるよ 左 そんるくれさろた
おくちあくいやいうくさとかくのくきやいきく。
いりておうくなんく 松 そくかいやうトゆくさて
水 おりて弁安でかくくだきるくがうけが。
きそうるうの 左 そのかくさんのるざんを。
ゆりやア赤ておかるんをうく 水 ちろてる
うんう 左 りくぺうんざちりろぺくさんで

おざんたてまつるとちろくとびはかやんるん
しる 水 ソリヤア はやめんざおいしゝぐまきてこゝぐ
あのてあの人きたるゝ。それわゝちがかわくるろ
ておそこゝもこてゝもおろうのぐの
なんのゝのゝでゝくゝるせくるゝどゃわく
ゝるる 匹 それでもぷかりろくたるゝと
しているんぐさと。ゝりちゃア。ゆきさして
きりゝゝろゝそのあゝぐきゝふをる

水 ソリヤアちめくいのりてきゝぐいぐ。反
はやめんざおいゝぐきてこゝぐゝるくきれ
ちゃア。ちゝあんだんゝきのゝろい理り
ゝろ
ゝもありゆをこゝるトかのうちはゆぐこゝ
はちあいちゃゆもたゝひのこゝの
たごとゝきゝこゝるゆくのるゝり 匹 そくくゝ当ゝけ
こゝとゝこゝんるゆくてきまいゝせんゝ。れる
うゝりてゝくくゝるいりんどゃアおざん
せんるきゝゆくはひゝゝりゝこゝれ
ちゃアなゝゝねもくべゝんゝるゝれ 水 それわど

ゆきてくさるしるこ。さぞおりろくをぞ
ろぺたぺくいりてきるゼく 匹 そんる〜
ちろ〜〜トそろるとる 氷 おい〜ぐるゆいろ〜て
ちんびんぐるよ 匹 ソリマアきゆ〜ちぐおざん
をトぎろ〜〜ろいてらけぐをびおい〜〜んるよらそく
孫ぐ〜ぐけ 四 夕 ろんるこんぐんぐんぐァをろん。
ゆろるきゆくぐおろれれべきいてびろう
まろ〜〜ぐさん〜〜まるぐあろうれぐいく

のをいとる 氷 ヨてていゆくまるいい唄ごとらあまく
ちろびぐろんとひよそろ〜〜ゆをぐをびやぐけをゆろ〜〜るひろ午。
ゆをもをやろぐまるぐあぐけ〜〜ぐいびきとろく
いびのよるきろく。剛の赤ん坊の下ま
ひびき ほるろく。今ん坊のまる宿ろく。犬の吼を
ろる〜〜。庫下の口ろまるよてろをのまん
きゆ風きのぐるの髪をひいてひべ。
とろぐぐ 湯ゆ水ろゆの 猫 投ぎ。ろとろて

きゝあるとうくひそく喰ハ鼠の耳みも
こでまう。濃茶の喜へふうれ有の
猫よこそ。猫ざの事の形ようう
さるへ。お茶とひいうてあいみて。
ちるゆ仮くそれ集る。生ひひ
ホ。多狂もみ同とさるして。
見れば中ぞう我ひとくなう

水 つまり猫へぞんざいの仮ハ

のこてへりんざ上奴てそ
よいがまりうがいうんへそ
ちつせうぞどうぐそうへる

若者 あるてでどうゆうとうとて
おさそまうどざうまを水さに仮て
もうりハいくがの中てうん猫へ。その内の
法うハまうれへうるこ迷哭ぐがど
ちぐへでもしそよる。ちうくつうハ
見中そるう。濃てきて今よ仮

つれもしゝゆくるゝ。かんのところがもゝゃ
このちぢ地い物でいるものゞう。ゆゝがゆよ
つゝぶも。同ちるといぶゞうーゃゃりゃ。ちよ
ぶるゝ。ゆもうも。せうちのさげでゝ井ろ
ゝ。ゆゝぶかうゝゝあるゝゆる。おゆゆて
ちゝぶゝつゃゃ。ぶゞられてゞもゆゝゃる。
イゝ乃いらゝゞゃゃゆ孫ゝぶ。おゝゃゆ女和の
ちる麦ゆゆゃいゞゆ。ゆうの切ゆとゆう。

燃藻俄の砂類ゃゃ。小粒とられて
のませちおゝゝぶ。女ちゞ。命の独ゝ逆浦と
いれさせちゝゃ孫ゝぶ。彩出の冠服ゆへ。
いくゝび旅ゆゆ法いゝう。ゝれ孫ゝといゆ
ゆんぶゝう。ゆゝ山ゆゝとうゆゝゆう
ちゆゆされちゃゃぶ。れのゆめゝも孫ゆ
ぶゞういゆる 若 法ゆ りゝもでぶゝゆを。
ゆもうも。法ゆうちのゆゝのゝぶ

くるお形へ中て。どふでもするのとどこへ
いうきろさやう。只今そよやまもそよう。
出んとそもの西。はアあうんなもろて 水
十二アあうんアるとをるの。紙へぐ。おんまうぐさアる。安菓子屋の紙
ぐくろよ。きうぐんかきるとしさよふる形アつ
きやアが川て。ふるももがつきへるんぐ
ちんる。昨のとうでちらくさよふる社ヤ

ろく 命でも。くろすけ助いろうの強るとこわ。
うんるかれが代今ぐいくぐんる 若 りくぐ出ぐん
なさいまセ。おいうんうちも。えよ出ぐる
さいい形へぐ。ちくくえきまうぐぐざうや
セんのでぐうでもうとうどもぐ。昨ろて
あるくまいてきまうまもパパさあうるう
うぐ今 トちうくもねへことうらてざうう
のくへよこまをとるきやうんきうそぐんは
つうれねうネとうそうれうるも 区 わうヤアるぜ

ちとおもちろんさく 水 なぜこゝあ
でさ 医 それでもゴロンとびつけて。
あんなよろヤセくまこゝアおざんせんいる
水 いろさげどうさいわいくできた 医 それざ
とりてねしづいりてこいゝぴるんゝ
おやアおざんせんう 水 いってこいゝいるさ
まうそでくびくまれさりのご。数屋のよ
るとうと。我儀ようやアきちくし。

とうでふるう十るのゝころぐいってる
のよ。今までこゝあくいってげあるんく
医 ソリヤアヨろちもそこよい
しそ。下で茶とうぐうぐうぐうてしし
といるそんなよらでゝとぐろせくをうくへ
うゝ。あまうゝいりてこいゝぴるんせん
げようおざんまそれるるふもおんなよ
きうれもしあくゝとぐろせくをこゝア

おぎんセん。家人(きゅうにん)とそまつよぢもーーと
よーーでゐい者ゆうくきこえもでくーゐろ
ちぐゐるよおもとゐな。よーくうんぐくもおん
なんーーぬーもこゐくまーーとこちまきやァ
者るんまもくーーちーーめるぎーーきを(ま)
あけさーーりてゐゐとよびづけるん
まここァおぎんセんよトーーこそこまのみ
ちれきるくもーーりーさーーちぐまちぬて
ちりいゐりよよゐのねとぐーてわやまり 水 コウ

おいーーもまーーのーーろまぎれよゐゐくーーも
よいーーさぐゐるァ。ぐんゆんーーわくー 因 ソリヤア
ぐーーセ。ゐろちーーぐよーーなりのでおぎん
まそーーぬーーまちの。おきよそまねまーーも
おぎんーーゆうぐ。このちゐ(ち)へまぢめくお出
なんーーさおゐ方(ゐ)まぢやァおぎんまもやくーー。
ちーーまァくぐくのまーーもまいアあしてぎん
なんーーさぐよーーおぎんまをハる 水 ハイ〳〵

[比]あんまりねーゃァ。だくしうかざんさて。
[水]ハイ〜〜[比]ふりいきるトふとんのたもとよねて
いくなるほどれいる。[水]コウあれぐあやまるさう、
あはりしてきごんとるとる[比]たてごうれていつそ
しゆくがいとふまそいるトわろうとんしやるし。
なとうはねうしてまりどりくきまーゞとがさらくて
のきゆくちのさんぎよめとさまうこ
[ウタ]ある　きるうるようふでおいどざいてわれさ。
　　ゆ
　　ゆ
　　ゆ

るいてだろうぽろうぽろうぽ

きゅうぐぜんてくざーきでぺぬーの分法れ
さんぐさうぐれとぷろちーぐきーんぺぷ
なんーてぐおわくさんハヌ。きーそさんぺぐ
なんーーそでおざんきゅう孫[屋]るわぐぐお
わくぐをみいるさゃとゃぷちぐく孫へそのぐ
おーーもぐ五くぐ屋へのさーきゃ。この門ァお
いーんぐすちぐのさーぷおりてちぬゆーさ
ぐそんもーくもわくさぐーぷんまうぐ

いーこのさぐれぐヌぷどぶきゅーさ[きー]それぐ。
ちーぐ五さんぐすちぐへてぐおひーこうの客[きゃく]
くとぐおーんの屋[とこ]へぷれていきるんーーさんん
でおざんをくーぷおいーんもぐりゃァきゅく人
ぐすちぐのさーよぐぐーぷおりいるんても
のんきーこぐおさんやんせんーぷそれでおわく人
さんぐこ五くおつれャいーさのでおざーい
まぐそれーいーもぐおわちーの家人ようゃァ。

おめ〳〵さんのろうげ。いく男ざんをうのと。
おいらんもんのうちじゃアるまちがえるこのげ
りつく。蜂（うれ）〳〵くてぞ。ゆりいせんらうのこと。
おざんまゆうそく〳〵おきてみんし。
掛（たてざそ）ちさんげ。いつそころちらぶ。あくとまち
ぐへさとよいるんしてよいらてく。
おいらんと。いゆいなんしこしぢゃおざん
せん。掛ちさんいおきくのこるう。

狐狸とおちてぴろそいらんと。こる
しるんしこきゃア。ぴろちらもりく。
ゆりてぴついてでもゆりてくよる。
おりりてちらいさのとその時ぢろと。
てくてゐるんしおいらんのんげいく〳〵
りてゆりいせんそれざらおめさんも。
これらきてあげておらんるん。でせう
でおざいきる。ゆこりゃア。ぴろ

ちらもゝもゝぐ。ちゝこのこゝやいをそゝいゝ
いゝたちでちざんをものとゆゝづ。ぶぎり沢
ゝお出るんせんとゝぞのさんのうかぐ
ゝちいせんゝるぞれゝまぐぢお出るんゝ。
たゝぐそさんのちゝをみやァこゝく
けうゝあのあゝくゝいろゝゝとゝもゝゝ
ぞのさんとゝうゝぐゝゝてゝゝやゝゝゆゝゝゝ。
るんゝゝゝこゝぢんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

[ね] ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。おいゝゝゝ
つれも走りているゝ。[きく] 十二あのあゝくゝ。
いゝそ碎(よ)ゝてゝるんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
むちゝぐいるんをゝそふざぜんてくゝゝ
ぐそさんもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝくゝいをゝ。[なゝ] それぐゝゝのゝぢざんを。
りゝゝいろおゝこゝのりゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
孫トゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

づるくどもきるんしさうこうろうもぷ。ぷしくしまさ
きろぷりしおきづりうるんし（えるぞのてンとちづめて）
こどくしひうつむく　きく　おいしんぷりんゆも月ハおざん
せんくへ　花　ねこさるさんぷ。おあうがさくを。
きくきさくさんぷりいりておやをこるん
　　りあるさ　花　おやをこるせへ　きく　ハイ
あるさトるこたるとこもるゆく　花　そりつはとん
ぷさしであつさトよぶたとうぶうわるおいしんへ
あんどうの大とうぷそびゆぶ

ぶのうげくようてぶしんのとくあぶうきゆくへいつぷくきのつけて
ぶしうつおいてるざぷたるどのいきこさまで用いるぷきたに。
まくぶこんぶるきぶりてしうとしるぷりのうつき。
されどもかれてるきゆくまゆこれまおやんとぷしひ
そふくむ二ろハ目の　花　ソリヤアこ大きこるきどのこるる
きそろこのきのどくるる　花　どんるまこころ
づるくどいこしいしてもぷおやくこんげぷこう。
ぷんきそどぞこぷきそおこうんるんきやゃア。
よりふおざんきぶぷひよろこぷぎろみて。
おぷるんせんこぷりみくぷろちゃアいぷ

てゝいられいせんゝ。それゞゝ迄ゝ
てゝうういせん目ヲクヾるむ 尼 そゝいゝ今日ごゞゃ
ゝそひゝでも。これゝゝこゝゃゝる孫
ゝいゝりんぐぐ。おめゝぐまゝ。そのゝれで
つゝゝりてゝんるゝゝゝゝゃゝ。ゝゝゝゝいぐ
孫ゝゝいゝりのぐ 尼 おめゝさんゝゝそのゝ
おんるゝ。ゝゝゝゝぐ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝるゝてもいゝゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 尼 ソリヤア

おゝぐぐ。ゝゝゝゝゝおめゝぐゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てぷんのゞくもわくこゞゝぷゝゝゝるぷお
めゝゞそのゑいゑるゝぷゝろちもぷそゝりり
でこゝふゝるゝ 図 そふゞゝろてぷのうぷ
ちゝゞでさんゝぷゝろゆでもゝておうん
なんゝちやァぷいよゝくゝとこいせんめく 図 十二
おいゝのゝふゝるりのゞぷそんなこゞぷでゑる
りめく 図 でたいをゝるぷちゝゞでさんゞ
てくゝぷれているうんをこゝゞやァおざん

せん 図 十二ぶゞゝれるりめゞ 図 ゝれいで
どゝふまいゝゆゝこぷそんなゝふおとこゞりの
とゞきゝゝのゝう 図 いてくく
図 ゝんゝおりくさうんのきぞぷおゝうまいい
りのゞとおりゝてぷ出るんゝやゝゞなゞぜ
ぷゝゝこうやァぷそこゝ身ちゞめておいで
なんゝぷ男人のゝふゝやァありゝせん
ゝるる 図 てゝふゝぷまちゞゝこのもゝくゝの

えんごろう 兄 こんるうれいこんかざん
せんようとぐろくひゑとをゑ 屋 おめくへ紙
ふろているさるぐらんぐらいはきそて
ふんてくようぐ 兄 アレいこふかをいるぐまおめく
さんのゆびかぐんざるそるぐうかをよ 屋
ゆびもなぐいぐくまもなぐいかのぐそこるう。
まぐるぐくものぐあくりゆを 兄 ドレそるぐく
ものとかうせるんしー 屋 コウらをぐうてく

兄 くをぐりさくをもぐこくてねるんー 屋
そんるくぐかいくもんよくくかめくも
こくくてねるよ 兄 アヤ およくるんー
あやまくりくぐこかめくさんぐるんとと
屋 おりくくくてねるよ 兄 くりはきをを
あるよトくんづどくんづはくをゆのちるへ
きぐくのくくくぐもくぐぐせられてゐる
せんこのかへをぎくる。るくくゑの一ト
ぐんぐくぐぐぐ。ぐくぐぐ。ぐくぐぐ。ぐくぐ。
ゑ。ゐくるぐ。ぐくぐ。ぐくぐ。ぐくぐ。ぐくぐ。

宮の内殺意菜とひのだて。
後篇よいぐさ。私の同藻咲うう。
彩屑とりめてうとめうる。あるも濃
さね意中も。ナ平なれる時ふ即ふや
たなれやとさられど被れても焼往
あり。ふ〜貴ふも。彩道をそくうちへ
人ゲよし。若者やりるふとふや
まるあり。ふまれ。れ。ゲし。危角人ハ。恨
られうちゲろちうむしゆう
やうう。恨るようふるめてあるる
ゲるしそとりめて。若時二変ア
新人〜爾云

塔廊問答　十偏舎芽有　全一冊　出来

恵比良濃木母

青樓曲（セイロウノキョク）　少年行（セウネンコウ）

趨庭萱草動精神（スウテイクワンサウセイシンヲウゴカシ）　已愁客年少人（スデニウレウキヤクカノネンセウヒト）
おもうさんやちるさんまをきくれて　そんるよりいきでつまるものを

那報倡家千金諾（ナンゾムクヒシマウカセンキンノダク）　獨行何處邀芳春（ドクコウイヅレトコロカホウシユンヨウカヘシ）
ぞれぐつまるさるるのしゆきんん　ひとりよびるくるあんじゆる

十偏舎一九賦（眞）

書船

絶講釋跋

鈸拐が晒落と吐く。鄙ら自倨
ちを吐く。此ま十偏舎のあるじ。
廊中乃通言口と吐く。雷同る是
と謂バ嗚呼其文乃高吏。凡
三萬三千文白髮色仏羽し。故

蕩粋も一度閲して或ハ遂ひ
或ハ惜し詳〻寔とるべ〻る
両枕子ゑゐ生ゞ鼠も程と変
ざ文福茶釜子一段ものうて
り色の生たる手練手管の本間乃
中障子乃賞乃究まて探て

此一冊子とるも序の
後子其理を誌すて謂ハ
いやぶ其究乃深ま至るまで
一寸先ハ先〻闇乃究覈〻
爾云

若木亭扇光演

顯

喫情買帳　客縁記　完

十返舎合作

倡客一夜節　全

同作

右某戌春四月板ほり終る

[illegible]